

そらがく

(No. 43)

25.3.18 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集



持続可能な社会

総合的な学習部長

平岩 和博

ESDの視点に立った学習指導の目標は、教科等の学習活動を進める中で「持続可能な社会づくりに関わる課題を見出すこと」「それらの課題を解決するために必要な能力や態度を身につけること」です。私は、この「持続可能な社会」という言葉を見ると、本校学区のことを考えてしまいます。

現在、私が勤務している額田中学校には、三度目の赴任で、延べ一三年間お世話になっていきます。昨年度創立四〇周年を迎えた本校の学区は、市の面積の約半分ほどを占めています。学区の現状は、年々少子高齢化に加え、過疎化が進んでいます。私が最初に勤務した三〇年ほど前は、本校の生徒数は四七〇名を超えていました。しかし、加速度的に過疎化が進み、現在は、二三名となり、半減しています。そこには、本校の卒業生の多くが、親元を離れ、生活に便利な都市部へ移り住んでいる状況があります。

過疎化に拍車をかけたのは、一九八六年のウルグアイラウンド締結と言われています。以来、外国から入ってくる木材にかけられていた関税は撤廃され、安い外材が輸入されるようになりました。地元で林業に従事し、生計をたっていた人たちは、林業だけでは、生活が成り立たなくなり、その結果、地元の方々は、林業を離れ、遠くまで勤めに出なくてはならなくなったのです。

山で木を育てるためには、成長する過程で日当たりを良く

するために間伐をし、ある程度の間隔をとって伐採する手間が必要です。しかし、現在、林業に携わる人は、高齢化が進み、すっかり減ってしまいました。山道に入っていくと、昼間にもかかわらず陽が入らず、気味が悪いほどになっているところがあります。また、山が荒れ、倒木が進んだり、山の保水力が落ちたりすることにつながっていると言います。「持続可能な社会づくり」という言葉をとれば、学区の主産業であった林業は、社会の動きの中で持続が難しくなり、学区の様子も大きく変わってしまいました。まさに、学区は、かつて栄えていた地元の林業の持続が、難しくなってしまうという地域とすることが出来ます。

こういう現状の中、本校一年生は、総合的な学習で、植林された木の間伐体験や木の皮むき体験を学区の林業クラブの方のご指導で行いました。さらに、間伐した木を利用して、テーブルやベンチ、プランター入れを製作し、学区のホテル学校や森の駅をはじめ、近隣施設に贈呈する取り組みをして感謝されています。



【チェーンソーで間伐体験】

学区の主産業であった林業について学び、間伐や皮むきなどの体験を通して山の手入れをすることが、岡崎市民への飲料水確保につながっていることなどを実感として学ぶことができました。郷土(山)のことを知ることで郷土愛が育まれ、ESDにつながっています。生徒たちにとってこの取り組みが、学区を見直し、学区を愛し続けることにつながればと思

ついでに。

研究・研修報告

〇岡崎市立大樹寺小学校研究発表会

「郷土に誇りをもって、

新しい未来を切り拓く大樹寺っ子の育成」

「自立の心」を育む家庭学習を通して

大樹寺小学校 戸澤 繁美

本校は、平成二十二年度から三年間「心の教育の推進」という市教委からの研究委嘱を受け、「郷土に誇りをもって、新しい未来を切り拓く大樹寺っ子の育成」を主題とし、「家庭学習」と「自立活動」の二本の柱を立て、研究実践に取り組んできました。

「家庭学習」は、総合や生活科の時間を中心にして編成した「大樹寺小カリキュラム」に沿って進めます。地域と関わり、そのよさを実感し愛着を深めることや、徳川家康の生き方や考え方に触れ、子供たちに「まなぶ」「がまんする」「やさしい」の三つの資質を育むことを目指しました。

また、「自立活動」では、「自立振り返りカード」を使って、生活の目標を確認したり、自己を見つめたりする時間を毎日もつようにしました。さらに、奉仕的活動や、友達との対話などを、自立の活動として設定し実践しました。

研究の成果として、大樹寺の寺領内にあるという本校の特色から、子供たちが漠然と目にしたり感じたりしていたことを、「家庭学習」であらためて見つめ直すことで、その意味やつながりを考えたり、地域のよさを実感したりする子供の姿が見られました。また、振り返り活動を継続することにより、学年が上がるにつれ客観的に自分を見つめられるようになりつつあり、高学年では目標に対する意識や達成率も高くなってきました。さらに、アンケートによる子供たちの意識調査でも、「周りの人に優しくするように心掛けている」「苦しいことがまんしてやるようにしている」という項目に対する肯定的な答えが、研究年次が進むにつれて多くなってきました。

います。健康の生き方や考え方を、子供たちに育てたい資質として、心の教育の中心に据えたことが効果的であったと考えています。

○岡崎市立新香山中学校研究発表会

「環境を見つめ、考え、働きかける生徒の育成」

—環境学習を基盤としたESDの展開—

新香山中学校 山内 貴弘

本校は、岡崎市教育委員会より「環境学習の推進」の研究委嘱を受け、本年度十一月十四日に研究の成果を発表し、全国から集まった四八〇名の方々に発信しました。

研究は、本校で大切に保護活動をしているササユリのようにじっくりと芽を出し、葉をつけ、順調に育っていききました。岡崎環境学習プログラムに添った実践の中から、地域で起きている「獣害」や地球温暖化を背景とした「森や生態系の変化」、職場体験学習から「企業の社会的責任」などの本校独自のテーマが生まれてきました。さらに、震災以降のエネルギー供給や共生社会について未来志向で考えるESDの授業づくりを目指しました。

そして、華を咲かせる本年度、生徒自身が環境に対して自分事として問題設定をし、本気の探究活動によって自分の考えを磨き、持続可能な社会をイメージし、行動化の意欲を高める授業の実現を目指して取り組みました。キーワードは、「感受性と世代間倫理」です。また、当日は、二〇一四年に行われる「ESD総括会議」に向けた現場からの提言というテーマでシンポジウムも開催しました。



○「総合的な学習の時間」実施状況調査の集計結果

指導員 大門小学校 倉地 耕治

二学期末に行った実施状況調査の結果から見える「総合的な学習の時間」の現状について、集計の一部を報告します。

一 「総合的な学習の時間」の名称

指導要領には、内容の取扱い(八)で「各学校において適切に定めること」とあります。

■ 小学校：三十四校(七十二%) 中学校：六校(三十二%)
が学校独自の名称を設定しています。

■ 「わくわくタイム(学習)」「ふれあいタイム」「ふるさとタイム(学習)」が、人気ベスト三です。

■ 「なのはなタイム(学習)」「ひのき学習」「けやき学習」「くすのき学習」「ササユリタイム」「ゆりのきタイム」「水車タイム」など、各学校のランドマークを取り入れた名称も多いようです。

名称のない学校も、改めて考えてみてはいかがでしょうか。

二 「総合的な学習の時間」の学習分野(内容)

中学校一年生までは、環境と郷土(地域)を扱った実践が圧倒的に多く、中学校二年、三年ではキャリア教育の割合が増えています。また、小学校高学年で福祉や国際理解に関する内容、中学校では、防災に関する内容が目立ちます。

岡崎市環境学習プログラムの学習項目を地域に当てはめたり、学区の伝統や歴史に焦点を当てたりして、未来志向で学ぶESDの授業づくりが多く、多くの学校で試みられています。その他には、大豆栽培など食育、俳句やカルタ作り、長年続く愛鳥活動など、各校独自の地域カリキュラムが見られました。

三 職場体験学習の実施時期

■ 六月：一校 夏休み：九校 十月：四校 十一月：五校

生徒の希望を優先し、百以上の事業所で体験を行った学校、職業適性検査を行うなど適正についても考えさせて実施した学校がありました。実施時期については、各校の現状や行事との関連でいくつかの課題もありそうです。

■ まとめ

ユネスコスクールに登録された学校を中心に「総合的な学習の時間」はESDの中核」という回答が寄せられています。持続可能な社会の担い手を育てる場として、「総合的な学習の時間」の重要性はますます高まってきています。「何を学ぶ」ではなく「何のために学ぶ」を大切に、子供たちが本気で取り組み、行動化に結びつく学習が期待されます。

	ア 環境	イ 国際理解	ウ 福祉	エ 郷土	オ 職業	カ キャリア	キ 防災	ク その他
小1	50%	2%	2%	38%	2%	1%	0%	6%
小4	50%	3%	2%	38%	2%	1%	0%	6%
小5	44%	4%	1%	25%	2%	2%	2%	6%
小6	36%	10%	11%	30%	2%	4%	1%	6%
中1	42%	3%	5%	14%	2%	11%	5%	15%
中2	20%	3%	2%	5%	1%	51%	4%	15%
中3	27%	1%	1%	4%	2%	28%	5%	24%

二月二十三日(土)午後二時より、愛知県野外教育センターにて、愛知教育大学の久野弘幸先生、名古屋学芸大学の三浦浩子先生、允文館塾長の福應謙一先生、北海道教育大学の坂井誠亮先生を講師にお招きして、第八回「岡崎総合的な学習研究会&生活科道場」が次の内容で開かれました。

藤川小学校 高沢 秀昭

八本の実践が報告されました。先生方の単元構想の工夫や子どもたちの成長ぶりを感じると共に「この教材、この人との出会いを通して、今年しかできない学びを味わわせたい」という熱意が伝わってきました。また、「環境学習プログラム」「キャリア教育」「ESD」に関する実践や他校との連携で学習を展開し、成果を収めている事例なども紹介いただき、岡崎市の総合的な学習の魅力を再確認することができました。

一 実践報告会



二 懇親会

資料をもとに、坂井先生から授業分析の方法や子どもたちの発言の取り上げ方などについてご指導をいただきました。

実践記録のご紹介

☆ 総合的な学習の時間 実践記録集・指導案集

本年度も総合の実践記録集をホームページに掲載しました。掲載場所は、

<http://cms.oklab.ed.jp/sougou/>

のトップページから、左側のメニュー中「実践記録集」をクリックして、希望の年度をご覧ください。